

# 耕土耕心

第31号

令和6年  
3月20日

編集・発行

静岡県立農林環境  
専門職大学同窓会

〒438-8577  
磐田市富丘678の1  
電話  
0538-31-7901

## 農林環境専門職大学 同窓会の今後の方向

同窓会長 大原正和



早春の候、会員の皆様にはますますご健勝のことと推察し、日頃のご活躍に敬意を表します。

さて本大学同窓会につきまして、以前から会員同士の交流縮小、全体事業のマンネリ化、役員のなり手不足、老壮青等年代別会員の意識の乖離などさまざまな課題が挙げられてきました。そこで、本部役員会では今まで3回ほどの検討会を実施してきました。

本同窓会の会則には「会員相互の親睦を図り、学識を高め併せて母校

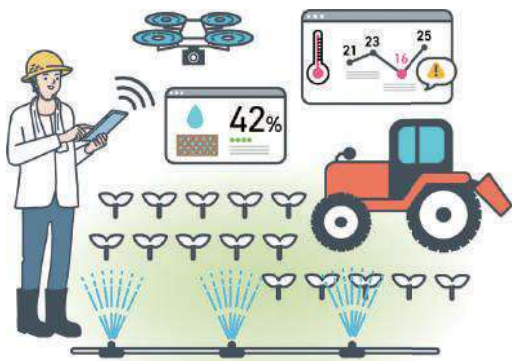
等の発展を期することを目的とする」とあります。これをベースに検討した結果、「全体事業は会報誌の作成だけで、これで良いのか」「支部の活動は会員同士の親睦を目的にして実施しているが、ベテラン会員を主体に参加者が固定化している」「若い会員の参加が少なく、同窓会に対する意識がわからない」などの意見があげられました。こうした課題への対応に加え、より活発な同窓会としていくためのいくつかの提案をします。

○会報誌は今の郵便による配達から順次SNS等を利用した効率的な伝達方法に切り替え、合わせてホームページを設置して、会員同士の情報交換を促進する○全体事業として東中西の順番で講演会や交流会を開催する○在校生への対応として、農業経営士、大規模法人経営体、自治体、農協、農業関連産業等において活躍している多くの卒業生情報を提供し、学業への動機づけをする○卒業後は同窓生のつながりを強化しそれぞれの分野で支援や相談に応ずる

役員会ではまだまだ議論が足りな

いと考えていますので、この会報誌を読まれた諸兄はこれらの提案や他の案についてご意見をいただきたく思います。

農業においては食料安全保障に必要な担い手育成、農業技術の向上、生産基盤の確立など多くの課題が山積んでいます。同窓会でできることは限られています。同窓会での親睦や大学への支援といった活動を通じて少しでも農業振興に貢献できればと思います。



## コロナ禍を乗り越え 完成年度へ

農林環境専門職大学学長 鈴木滋彦



同窓会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

令和二年度に開学した本学も、四年目の「完成年度」を終えようとしています。新設大学にとって最初の四年間は特別な意味を持つています。文科省の「監視下」にあり、また定年を越えた教員の採用が可能であるなどの「庇護下」にもあります。完成年度、即ち揺籃期を終えこれから本格的な大学づくりが始まります。

昨年三月に、インドネシアにあるボゴール農科大学と大学間交流に関する覚書を締結しました。本年度は代表の教員が相互に訪問し、交流内容について検討を開始しました。専門職大学は、これまでの「大学の教育研究機能」に「本格的な実践教育/職業教育」を足した新しい大学であり、我々はその先駆者でありま



ポゴール農科大学代表者による本学訪問 (令和5年5月)

す。海外においては、大学における専門職教育は多様な取組があり実績も豊富ですので、欧州やアジアの大学と交流を通して人材育成のあり方を学びたいと考えています。  
また、コロナで中断していた「海外農林業事情」(学生が海外で研修する科目)を初めて開講し、三十名の農林業について学ぶことができましたし、十一月には念願の大学祭を開催するなど、学生の力を感じることができました。

同窓会の皆様には、今後の同窓会のあり方や活動内容など、熱く議論していただいております。大変有り難く心強く思っております。今後とも大学運営にご支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 《支部だより》 定年退職後の振り返り

中部支部長 栗田 一  
【昭和57年度 農林短大卒】

私は、昭和58年3月に静岡県立農林短期大学校技術者養成学科を卒業しました。農林短大では、寮生活、自治会活動、部活動(軟式テニス)、農業試験場での研究(微生物)など貴重な体験により充実した2年間を過ごすことができました。何より、同級生、先生方、試験場職員の皆様と知り合えたことが大きな財産となりました。

卒業後は、農林水産省関東農政局静岡統計情報事務所に入省し、県内各地を転勤しながら40年間農林水産統計業務に携わり令和5年3月、無事定年退職を迎えることができました。農林水産統計業務では、県、市町村、農家等を訪問し、調査の依頼や情報収集をお願いすることが多かったのですが、農林短大で知り合えた皆様にどれだけ助けられたかわかりません。農林短大での出会い

が、後からこんなに自分を助けられるとは驚きでもあり感謝しかありません。

定年退職後は、今まで一度も黒字化したことのない農業を何とか黒字化したいと奮闘しています。公務員時代は水稲しか栽培していなかったのですが、ブロッコリー、キャベツ等の露地野菜の栽培にチャレンジしています。病害虫防除の難しさ、除草作業の大変さ、野菜の成長の早さなど驚くことばかりです。販売はスーパーの直売コーナーを利用して

います。  
定年退職した翌日から、部農会長になりました。消防団活動、お寺の檀家総代、町内会の防災委員、同窓会支部長等、覚悟はしていましたがいろいろな役をお願いされます。地域との付き合いも大切だと思えますので、無理のない範囲で頑張るつもりです。

趣味のバイクやテニスも定年後はたくさんできると思いましたが、農業には休みがなく勤めている時のほうが楽しめていました。今後は、農業を中心に、地域との付き合いや趣味も大切にして、人生を充実させていきたいと思えます。



### 《活躍する卒業生》 「浜名湖花博2024」の 開催に向けて

堀切川 貴代  
【平成14年度 農林大学校卒】

同窓会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私は1999年に静岡県立農林大学校園芸学科野菜コースに入学し、研究部を経て卒業後、2003年に静岡県庁に入庁しました。それから約20年間、農林事務所での農業普及活動や、農業分野ではない移住促進など、様々な業務に携わってきました。

入庁当時は就職氷河期のせいか、就職同期は有名国立大の卒業生がほとんど。「自分がこの仕事をやっていけるだろうか・・・」と劣等感や不安もありました。しかし、実際仕事をしている中で困ったことはなく、むしろ、実践的な授業や農家研修といった経験があったおかげで農家にも飛び込んで行きやすい面があったりと、農林大学校に行っていたことが大いに仕事に役立っていると感じる場面が多々あります。

最近では「浜名湖花博2024」の開催に向けた植物調達の業務に従事しています。大学校時代の専門は野菜で、花に関わる仕事は初めて。最初はポット径の呼び方や花の名前もわからず苦労しましたが、今まで

あまり関わりがなかった花農家、市場の関係者、ガーデンデザイナー等と一緒に仕事をするのとても新鮮で、良い経験になっています。



花博を開催する一番の目的は「花の生産振興」です。そのため、できるだけ県内産の花を調達しています。そういった仕事をしている中で、多くの同窓生に出会いました。立場は農家、市場関係者、種苗会社など様々ですが、それぞれが専門分野で生き生きと活躍しているのを目の当たりにし、嬉しく思いました。

2024年4月6日に開幕する

「浜名湖花博2024」のために、県内産を中心に約40万株の植物を調達しました。ぜひ、県内産の花緑に彩られた浜名湖花博 浜名湖ガーデンパーク会場を見に来て下さい！

### 《若手会員から》 知識を増やして 農家さんの手助けを

【令和3年度 農林環境専門職大学  
短期学部卒業】  
芹澤 武

農林環境専門職大学を卒業後、豊田肥料株式会社に就職して3年目になりました。

入社してから農家さんのところを回り、メロン、水稲、苺、お茶、露地野菜と様々な作物を勉強して営業しています。

勉強や3年間の経験を通じ、知識を増やすことができ、メロンやイチゴなどで、病害虫に対しての相談に對してのアドバイスをした際、「芹澤君がおすすめてくれた農薬使ったらとっても効いたよ。」「土壌診断を行ってこの肥料を使った方が良い、この肥料を減らしたほうが良い」というアドバイスに對してやってみたら、「もの」が良くなった。

などの言葉をもたらした時はとてもうれしく思いました。今後も私が関

わっているお客様すべてからその言葉をもたらるようにしていきたいと思いました。



一方、最近では、肥料を販売するにあたり、肥料価格が高騰し、営業がやりにくくなってしまう、まいつています。

ウクライナとロシアの戦争や中国の原料ストッパーが原因でリン鉱石の高騰、円安での輸入物の価格の上昇等、様々な要因で価格が高止まりしています。

農家さんは「良いもの」を作りたい気持ちでいっぱいなのですが、資

材の高騰に對し、野菜の売値が上がらないため、資材を安く抑え、肥料を減らさざるを得ない状況です。

しかし、コストを削減するために機能性の肥料を使ったり、天敵を活用し、農薬散布の時間を減らしたり、ドローンなどを使用して労働力の削減など、農家さん一人一人に合ったやり方による省力化等やるべきことはたくさんあります。

今後も省力化や効率化による規模拡大、収益向上等、農家さんが考えることの手助けを行い、農家さんが今よりもっと儲かることができるように営業をしていきたいと思っています。

### 《同窓会の活動》 同窓会長賞の創設

在学中に学術研究活動、社会貢献活動等に対して真摯に取り組む、特に他の学生の模範となった学生に對して、同窓会長賞を授与することとしました。令和6年3月15日に開催された学位授与式において、大学・短大の卒業生3名に会長から賞状を授与しました。



同窓会報は、大学ホームページにも掲載しています。こちらのQRコードからご覧ください。

## 《学校の話題》 大学になって初めての 大学祭の開催

令和2年度度のコロナ禍に開学した本学は、開学以降3年間大学祭を開催することができませんでした。新型コロナウイルスが5類に移行した今年度、ついに！念願の大学祭を開催することができました。

大学祭の名前は「豊穰祭」。今年のテーマは「翠緑（すいりょく）の序章」でした。

学生が中心となって企画を行いました。当日は各専攻（コース）やサークルの出店が20店以上出店しました。畜産コースによる駿河シヤモや遠州夢咲牛の炭火焼き、林業コースによる木工品販売など、各専攻の特色が出たものも多くありました。ステージイベントでは、吹奏楽や和太鼓の迫力ある演奏などで盛り上がりました。

農林大学校時代も大人気だった農産物の販売も行いました。学生が作ったメロンやお茶、野菜、花など多くの品目が並び、販売開始前から長い行列ができていました。

当日は約1,200人のみなさまにご来場いただきました。ありがとうございました。

大学祭など、大学の情報はX（旧ツイッター）やインスタグラムでもお知らせしています。こちらもぜひチェックしてみてください。



## 《学校の話題》 専門職大学が 開学5周年

農林環境専門職大学事務局

本学は、多くの皆様に支えられ、令和6年度に開学5周年を迎えます。そこで、これまでの取組を振り返り関係者の尽力を讃えるとともに、今後一層の発展に向けて活力となるような記念事業の実施を計画しています。また、その財源の確保としてクラウドファンディングに挑戦したいと考えています。

詳細については、後日改めてホームページ等でお知らせいたしますので、皆様方の御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

### 《事務局からのお願い》

住所変更、訃報等は、各支部長又は支部役員まで連絡をお願いします。